



古道を訪ねて⑦

西国街道・稲地区

萱野地区から西に進み、稲地区に入ると、道は緩やかな下り坂になり、最も下った所で、鍋田川に架かる橋を渡ります。橋を渡った右側に、数多くの石仏を祀った「春日地蔵」と呼ばれる祠があります。河川改修のときに川底から発見されたものを集めたものですが、同じように石仏を集めた祠が、300m程下流の、千里川と鍋田川の合流地点の脇にもあります。



▲春日地蔵

周辺の地域から一段低くなったこの地域は、過去に幾度も河川の氾濫による洪水の被害にあってききました。石仏は上流の村々から流されて来たものと考えられますが、洪水で流されたものは、石仏だけではありませんでした。橋の西側の街道脇にある「勝満寺」では、元禄3

(1690)年の洪水で、お堂などの建物がごとごとく流され、4人のかたが亡くなりました。また、天保11(1840)年の洪水は、稲にある「教皇寺」の本堂の屋根を、下流の豊中市野畑まで押し流したほか、野畑で水車稼業をしていた「茂兵衛」という人の家族5人の命と、牛や水車小屋などを奪い去りました。



▲千里川と鍋田川の合流地点の脇にある地蔵

かつては荒川であった鍋田川や千里川は、今ではコンクリートで固められ、氾濫することとも無くなり、周辺を歩いてみると、石畳風に整備された街道や、祠の中に静かにたたずむ石仏、古

風な民家などが、のどかな気分を与えてくれます。しかし、多くの先人が苦労した歴史を想いながら街道を歩くことも、ときには必要ではないでしょうか。

